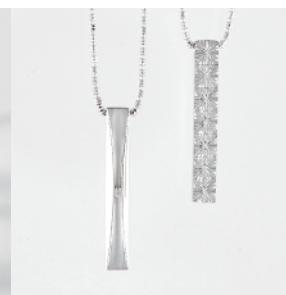
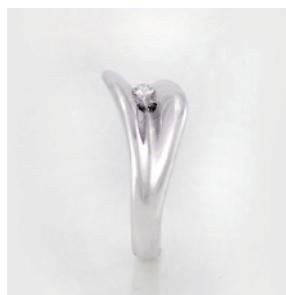


# ジュエリー・アーティスト・ジャパン通信

[www.jewelryaj.org/](http://www.jewelryaj.org/)

ジュエリー・アーティスト・ジャパン  
米井 亜紀子  
〒156-0055 世田谷区船橋1-14-12  
シンコーストウディオ内  
Mail: info@jewelryaj.org / Tel: 03-3429-8077



## 第1回 JAJ スタディ・ミーティング 2017

### ビジネスの基本 - 仕事をスタートアップするということ 開催しました

2月21日夜7:20より、シンコーストウディオ世田谷ショップにて、JAJ スタディ・ミーティング2017第1回「ビジネスの基本-仕事をスタートアップするということ」を開催しました。



ジュエリーのアーティストやデザイナーなどのどんなに小さな仕事でも、お金を頂くということは事業をスタートアップするということ。若い人には継続性、社会的な意識をもって、仕事をして欲しい。又、事業を起こすということは、何かしら社会に寄与すること。そういう仕事こそ社会に求められている。

その覚悟を持つことが、プロフェッショナルへの道。

だからこそ、自分のフィロソフィー（理念）をしっかりと確立して財務の知識を待ち、維持継続性のある仕事にしてみよう！

「事業の理念、限界利益、アートとデザインの違い、預かり書の書き方…」等々。とにかく盛りだくさんの話でした。

大量生産、大量消費の世界に別れを告げ、一人ひとりの生き方に寄り添えるジュエリーをつくる。日本のジュエリー業界はきっとこういう志を持った若手が作っていくのだろうと思いました。



### 今後のイベント

5月19日(金) 7:20-

場所  
シンコーストウディオ世田谷ショップ

第2回  
JAJスタディーミーティング2017  
「ダイヤモンドグレーティングと価値」  
ダイヤモンドの卸会社に協力をいただき、実際のダイヤモンドを直に見て学ぶ入門編。  
講師は、ワールドシャイナー・ジャパンのシリッシュ・ヴァンマリ氏とGIA.GGを持つAJ代表の米井が担当します。

8月29日(火) 7:20- 予定

[2] JAJスペシャルイベント交流会

### 主催者・連絡先

ジュエリー・アーティスト・ジャパン  
(JAJ)

〒156-0055  
東京都世田谷区船橋1-14-12  
シンコーストウディオ内  
Tel 03-3429-8077  
Web [www.jewelryaj.org/](http://www.jewelryaj.org/)  
Email info@jewelryaj.org



### ジュエリー・アーティスト・ジャパン(JAJ)について

自分のアイデンティティを見つめなおし、社会に必要とされるものづくりをしよう。

2012年に、シンコーストウディオの米井亜紀子が始めた活動です。

ジュエリーアーティスト、クラフトマン、デザイナーその他ジュエリー関わる人たちが、若手を応援しようとするコミュニティです。

それと同時に、すでにプロフェッショナルとして働いている人たちが、社会に対してどういうジュエリーをつくり、売るべきかを模索しています。

若手を応援しながら、生産者、製作者、販売する人たち、そして最終的に身につける人々の壁を低くしていくこと。そんな試みをしていくことを考えています。

現在は、若手クリエーターへ向けての勉強会と様々な方が集まるセミナーを実施。

イベントの開催。FBグループでの交流。メール配信、JAJ通信の発行などをしています。

About Jewelry Artists of Japan





TOPVIEW



## ドイツのジュエリー・アーティスト 西林佳寿子さんとの座談会 開催しました

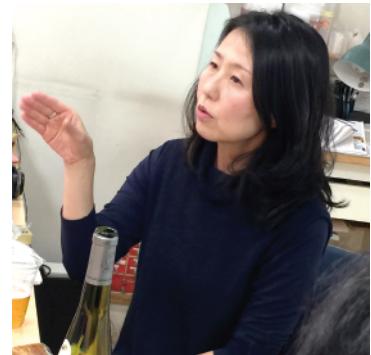
2017年3月8日(水)シンコーストゥディオ世田谷ショップにてJAJイベント「ドイツジュエリー・アーティスト西林佳寿子さんとの座談会」が開催されました。とても濃厚なディスカッションが交わされました。

### アートの役割とは？今ジュエリーができることとは？

アートジュエリーも、一般的なコマーシャルジュエリーも、つまるところどうやって買う方の理解を得て新しい価値を提案できるのか？一部のディスカッションをご紹介します。

### ドイツと日本のコンテンポラリージュエリーの捉え方の違い

**西林** 私はおそらくデザイナーというよりアーティストなのだと思います。ドイツでは、ギャラリーでジュエリーを買うということが、普通の光景になっています。



私も、10ヶ所くらいのギャラリーに作品を委託していて、売れるとき代金が振り込まれます。それ以外に年に何回かヨーロッパのギャラリーで展覧会、近年は年に一度日本でも展覧会をしています。ドイツには、コンテンポラリージュエリーのマーケットというのがきちんと確立されています。

**参加者A** 日本にはまだそういった、市場がないけれど、この先若手のジュエリーアーティストたちはどうしていったらいいのでしょうか？

**西林** 今消費社会は「モノからコト」に移行して来ています。アートの世界でも、パフォーマンス、インスタレーションのように、コミュニティに関わったりする方が注目されています。それは、実は日本の工芸の＊「用の美」につながる部分があるように感じます。若い世代は新しい視点で、アートと工芸、その他のものを組み合わせて、新しいものを生み出せるのではないかでしょうか。私もたくさんのコンプレックスをかかえているけれど、ただただ自分の行く道をひたすら歩んでいくしかないと思っています。

皆それぞれに道がある。その道は1つではなくて、皆違っていい。

\*「用の美」・・・1926年に始まった民芸運動で、柳宗悦が日常的に使われるものにこそ、美しさがあるという考え方。



### アーティストの役割とは、これからのジュエリーは

**西林** 今の時代、アーティストに今求められているのはステータスやきらびやかさではなく、もっと感覚的な感性的なものではないかと思います。

**参加者B** 以前はジュエリーというものが、成功の象徴として華やかに身につけるものであったようですが、今はむしろ、そういう側面より感性や、創造性などなどが求められている気がします。だからこそ、この閉塞感に満ちた時代に人の心を救うのは「ジュエリー」ではないかと確信しています。

### 売れる、利益を上げていくにはどうしたらしいか

**参加者C** なんとなく日本では、アーティストは利益を追求して来とはいえないという雰囲気があったけれど、やっぱり正当な評価の結果として、健全にお金を稼ぎ次につなげるために使っていくことは大切だと思う。

**参加者A** 利益を上げて、きちんと税金を払って社会的な責任を負っていくことは大事で、アーティストといえどもその構造や感覚を知っていることは大事だと思います。

**参加者B** そのためにはどうやって、新しい価値を最終的な消費者に伝えていけるか。そこが今とても難しい。

**参加者D** けれど、確実に今お店にやってくるお客様の要望が変ってきてているように思います。働く女性が増えて、意見がしっかりしてくると、人と同じものでは嫌で、自分ならではの信条やライフスタイルに合ったものと出会いたいと考えていると思うのです。



もう少し読みたい方は  
こちら▶

[www.jewelryaj.org](http://www.jewelryaj.org)

